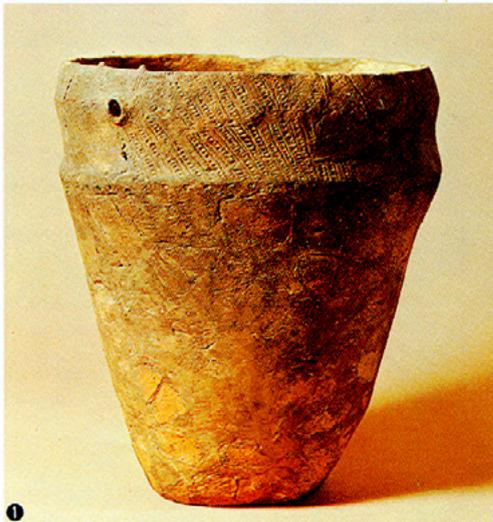
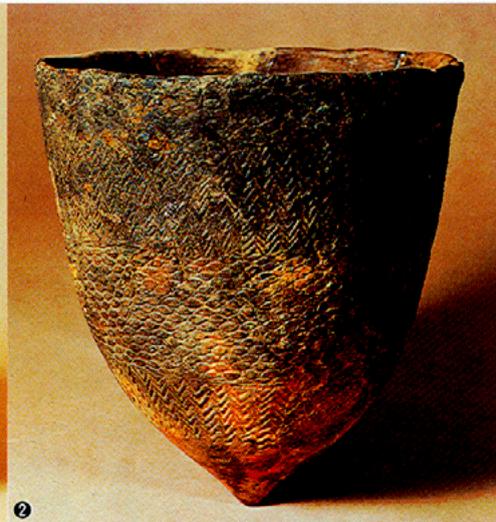


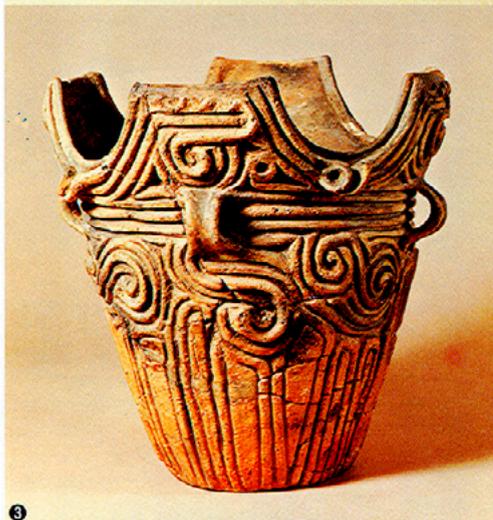
新潟県の縄文土器



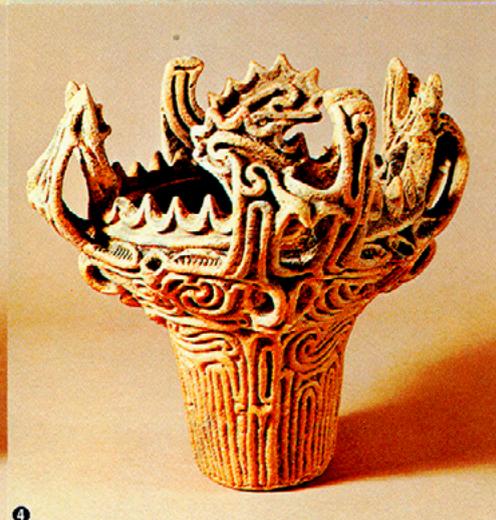
①



②



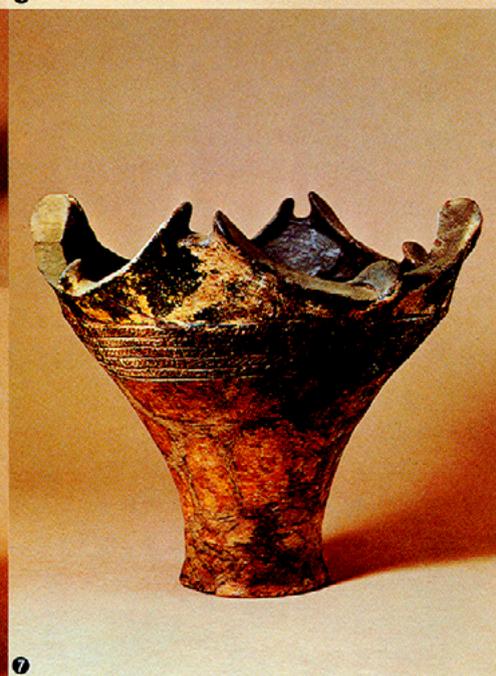
③



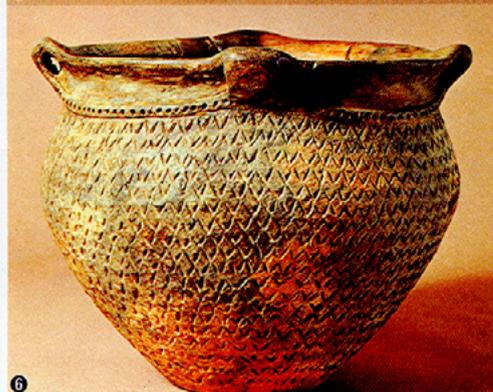
④



⑤



⑥



⑦

①深鉢 新潟県東蒲原郡上川村室谷洞窟《草創期》高さ23.5cm、長岡市立科学博物館、草創期後半の多縄文系土器で、土器の装飾に縄文をはじめ採用した様式である。口縁と底部の隅丸方形の形態は縄文土器全体のなかでも特例。段状に屈曲する頭部には右撚りと左撚りの縄を撚り合わせた特殊な縄文を施して装飾的効果をあげる。

②尖底深鉢 新潟県中魚沼郡津南町夕ノ木遺跡《早期》高さ24.3cm（推定）、長岡市立科学博物館、早期中葉に盛行した押型文系土器様式、彫刻を施した軸を回転押捺して文様を表わす。乳房状の尖底部からゆるやかなカーブを描いて口縁にいたる端正な形態を示す。器面は精円文と山形文を交互に四帯ほどこしている。

③深鉢 新潟県長岡市山下遺跡《中期》高さ27.8cm、長岡市立科学博物館、火災土器様式の古期に属し、①のごとき鋸齒状の口縁は未発達。頭部をめぐるコマボコ状の隆線束によって、上・下二分され、胸部に四つ配された横位の逆「S」字文は本様式の特徴的なモチーフである。

④深鉢 新潟県長岡市馬高遺跡《中期》高さ29.3cm、長岡市立科学博物館、中期中葉の信濃川流域を中心に特異な発達をみせた火災土器の典型である。口縁に大きく立ち上がる4つの突起は、燃えさかる火災を思わせるところから名づけられたが、むしろ尻尾をピンと立てて左を向く動物像にもみえる。

⑤蓋 新潟県三島郡出雲崎町稲川矢郷橋遺跡《後期》高さ10.5cm、長岡市立科学博物館。

⑥深鉢 新潟県三島郡三島町根立遺跡《後期》高さ22.5cm、長岡市立科学博物館、信濃川・阿賀野川流域を中心に佐渡を含むほぼ現在の新潟県全域にわたって行なわれた三十稲場様式。器面全体を棒状工具で施したいわゆる刺突文で覆い尽くすという特色を示し、後期初頭に出現して短期間のうちに忽然と消えたが、その原因は謎である。とくに王冠状の蓋の製作を得意とし、隣接の山形県や福島県会津地方から太平洋岸のいわき市、仙台湾方面にまで影響を与えた。

⑦深鉢 新潟県小千谷市三仏生遺跡《後期》高さ25.5cm、長岡市立科学博物館、後期中頃の加曾利B様式。関東地方から仙台湾方面にいたる太平洋岸を中心に発達した様式で、その影響は北は千島、礼文島から南の九州まで広く及んだ。本例はその典型の一つで、全面が丁寧に籠で磨かれ、黒褐色に焼き上げられて光沢を放つ。

①～⑦ 文・小林達雄 写真提供・講談社《日本原始美術体系1より》

- 草創期 1・2・3・4・5=室谷洞窟(東蒲原郡土川村)
- 早期 1=室谷洞窟 2・3・4・6・7・8=卯の木遺跡(中魚沼郡津南町) 5=三筆遺跡(中魚沼郡津南町)
- 前期 1=室谷洞窟 2=泉竜寺遺跡(中魚沼郡中里村) 3・4・5・6・7・8=鍋屋町遺跡(中頸城郡柿崎町)
- 中期 1・2・3=吉野屋遺跡(南蒲原郡栄村) 4=加津保遺

- 跡(長岡市) 5・6=山下遺跡(長岡市) 7・8・9・10・11・12・14・15・16=馬高遺跡(長岡市) 13・17・19=沖ノ原遺跡(中魚沼郡津南町) 18=大平遺跡(小千谷市)
- 後期 1=吉野屋遺跡 2・3・4・5・6=根立遺跡(三島郡三島町) 7・8・9=金塚遺跡(長岡市) 10・11・12・13=三仏生遺跡(小千谷市) 14・15=岩野原遺跡(長岡市) 16=藤堂遺跡(北

蒲原郡和田町)

- 晩期 1・2・3・4・5・6・7=朝日遺跡(三島郡越路町) 8・9・10・11・12・13=藤橋遺跡(長岡市)

- 弥生時代 1・2・3・4・5・6・7・8・9・10=緒立遺跡(西蒲原郡黒崎町)

新潟県の縄文土器編年模式図



<縮尺不同>